

沖縄の風俗業界で働く女性たちの移行とそのリスク

A precarious transition and the risk of young women working in sex industry in Okinawa

上間 陽子（琉球大学）

1 問題設定

若者の移行の状況は厳しく、かれらがリスクにさらされていることが広く知られるようになった。だがとりわけ雇用不安を抱え、リスクに晒されていると思われる地方在住かつ低学歴の女性たちが、どのように日々の生活を営み、移行を遂げようとしているのかは、これまで十分に明らかにされてきたわけではない。

国内有数の貧困地域である沖縄においては、慢性的な雇用不安があるにも関わらず沖縄を出ない若者や、仕事がないにも関わらず沖縄に戻ってくる若者の存在が指摘されてきた。雇用不安を抱えながらも、かれらが沖縄に暮らす理由は、「ゆいまー」と呼ばれる相互扶助の精神と地元地域に根ざした人間関係ならびに地域活動が存在するからであり、それによって孤立することがくい止められているからだ、とされてきた。

ギデンズは、自分や身の周りの環境に安んじていられる感覚のことを「存在論的安心」とよび、これによって「人は転機や危機、ハイリスクの環境をのりきる」と述べる。ギデンズにならえば、沖縄の若者は慢性的な雇用不安というハイリスクな環境においても、こうした地域活動によって存在論的安心を得ていることになるのだろう。

しかしながら、沖縄におけるこうした地域活動の多くは男性を中心にしたものであり、女性が参加できる機会は、実はわずかなものでしかない。地元の地域活動は、誰

を包摂し誰を排除するのかというときに、非正規雇用や失業中の男性を包摂しながらも、女性を包摂することはない。要するにそれらは、ジェンダー的差異を伴いつつ実践されているものなのである。

だが地元地域は、単に女性たちを包摂しない、ということにとどまらず、女性たちを監視し、否定的サンクションを与えるものとしては存在し続けているようにみえる。なかでも地元地域からの視線に晒され、矛盾を引き受けているのが、風俗業界で働く女性たちである。風俗業界で働く女性には若年出産後、男性と別れるなどして単身で子どもを育てているものも多い。別れた男性が養育費・慰謝料を支払うケースはなく、女性は賃金の高い風俗業界で生活のため働くことになる。しかしながら養育の責任を一切背負わない男性に対する制裁はない一方で、養育の責任が課され、しばしば否定的サンクションがくだされるのは女性たちである。たとえば風俗業界の情報がやりとりなされているインターネット上のサイトでは、店で働く女性が誰であるかが特定され、自分や地元地域の仲間との交際関係、地元での評判などが暴露的にとりあげられるなどしている。

そのため風俗業界で仕事をするにあたって、女性たちにとって課題となるのは、地元地域の関係者に知られないようにする、ということである。キャバクラで働く場合、より有効な戦略は、地元からできるだけ離

れた繁華街で働くことであるのだが、地元から離れた店は通勤に時間を取られることになる。そのため彼女たちは、同じ店で働く女性のネットワークを使うことで、他店の情報を収集し、比較的通勤に便利でかつ地元の客がこない店を探しだし、やがて店を移り、その店に定着する。

また、より身体を使う個室マッサージ・ヘルス・ソープランド店で働く場合、マジックミラーやカメラの設置によって、女性を知り合いの男性にあらかじめ接触しないようにするという方法が取られている。店に入る男性は、自分の名前と出身中学校名と入学年度をカメラの前などで話し、女性はその男性の姿と情報を確認する。これらによって、自分が働いていることを徹底的に隠そうとするのである。

キャバクラ店における女性のネットワークを介した情報収集による地元回避と、店も協力しての地元回避という違いはあるが、いずれにせよ、地元と距離を確保することが働くにあたって主題化するのである。

2 調査の概要と対象の抽出

以下が、報告で扱う「沖縄リスク層の若者調査」(2012-2014;共同研究者・打越正行)の女性の調査対象者のリストである。

① 美羽さん:キャバクラ店勤務 親同居

② 花音さん:キャバクラ店勤務 親同居⇒同棲

④京香さん	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
学校生活	中学2年生	中学卒業				
ライフイベント		破局→出産→実家	父親と母親の離婚			割烹
仕事		居酒屋A→居酒屋B→キャバクラA→朝キャバB→キャバクラC→キャバクラD・E→キャバクラG				
リスク	シンナー	シンナー・友人逮捕	脱法ハーブ・覚せい剤中絶			
ネットワーク	「Tバーキーズ」		友人と出動・相談		友人の結婚・出産	
					キャバクラの先輩	
			よる業界の先輩たち		公認の恋人	

⑦マナさん	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳
学校生活	中学2年生	中学卒業							
ライフイベント	中絶	出産→実家で生活		破局と別の男性と交際	他府県Aに移動			Aと沖縄を行き来	沖縄(実家)
仕事	ヘルス・キャバクラ		ヘルス・キャバクラ	ヘルス・キャバクラ					ヘルス・ソープランド
リスク				ダイエット目的の覚せい剤				過食嘔吐・下剤	過食嘔吐・下剤
ネットワーク			ヘルスの友人		ヘルスの友人		電話で連絡「兄弟のような関係に」		通距離恋愛
	子どもの父親となる男性と交際→実家にて同居→マナさんの友人との浮気で破局		ヘルスのオーナーと交際						地元の友人と復活
	地元の友人								ソープランドのオーナー

- ③ 翼さん:キャバクラ店勤務 子ども有
- ④ 京香さん:キャバクラ店勤務 親同居、子ども有、入籍なし
- ⑤ 優歌さん:キャバクラ店勤務⇒出産後無職 親同居⇒同棲⇒親同居⇒同棲⇒親同居、子ども有
- ⑥ 明美さん:風俗店 結婚、子ども有
- ⑦ マナさん:風俗店(個室マッサージ⇒個室マッサージ・ソープランド) 同棲⇒親同居 子ども有
- ⑧ ちかさん:事務員 キャバクラ店勤務⇒アパレル店⇒求職者支援訓練(基金訓練)⇒事務 親同居⇒同棲
- ⑨ 早苗さん:休職(育休) 飲食業⇒キャバクラ店勤務⇒飲食業⇒会社 離婚(子ども有)⇒親同居⇒再婚(子ども有)

報告は、第一子を15歳で出産したふたりの女性④と⑦の事例を扱う。ふたりとも、子どもの養育費や慰謝料をもらうことなく別れたあと、子どもを単身で育てながら、ひとりにはキャバクラ、もうひとりにはヘルスとソープランドをかけもちして働いている。

しばしば風俗業界の仕事は一律に扱われることが多いが、どのような仕事に就くかによってそこでの働き方やネットワーク、地元地域との関係、リスクには違いがある(④と⑦の移行プロセスの下図参照)。当日は地域に包摂されるわけではない女性たちがどのように日々を送り、どのようなリスクのもとで過ごしているのか報告する。